史書
#5

じょうきゅうき

承久記

作者：不詳

成立：不詳

解　題

Keyword

- 承久の乱
- 軍記物語
- 「承久軍物語」
- 「承久兵乱記」
- 「六代勝事記」
- 「三代記」
- 後鳥羽院
- 北条義時

承久３年（1221）に起きた承久の乱を描いた軍記物語。承久の乱については、鎌倉幕府の記録『吾妻鏡』（#1）等にも記されるが、本書は『吾妻鏡』では知り得ない京都側の動静を詳細に伝えており、史料的価値が高いとされる。

成立経緯

本書は、『国史叢書　承久記』（1917）に４つの代表的な本文が収められて以来、その分類にならって、一般に①慈光寺本系②流布本系③前田家本系④承久軍物語の４系統に分類される。本書は、大正期に本格的な研究が始まったが、現在もなお、その成立過程等さまざまに論じられている。

現在までの研究では、慈光寺本が各系統の中で最も古態と考えられ、これを全面的に改竄して流布本、前田本が派生したとするのが、大筋で共通する理解である。『承久軍物語』や『承久兵乱記』はそれぞれ流布本、前田本からさらに派生したと考えられ、『承久兵乱記』は前田家本系に含めて考えるのが一般的である。

最も古態とされる慈光寺本の成立時期については諸説あるが、遅くとも延応２年（1240）頃までの、承久の乱後間もない時期に成立したと考えられる。慈光寺本について初めて解説したのは『国史叢書』である。この解題（矢野太郎）では慈光寺本成立に『六代勝事記』が関与しているとの指摘が見られるが、これはその後否定され、現在では慈光寺本から流布本が成立する過程で『六代勝事記』が関与していると想定されている。なお「慈光寺本」との呼称は、彰考館に伝わる伝本の表紙に「承久記慈光寺本全」と記された題箋があることによるものである。またここから、作者は慈光寺子爵家の祖に当たる源仲兼あるいは

その子息仲遠の周辺ではないかとの説が示されている。

慈光寺本から、『六代勝事記』あるいは『平家物語』『保元物語』を媒介して成立したとみられるのが流布本系である。流布本とは、近世に古活字本・整版本などとして印刷され、最も世間に流布した本と、その同系統の本文をもつ諸本を総称したものである。流布本はさらに、元和４年古活字本、慶長古活字本とに分けられ、慶長古活字本から寛永期の整版本が作られたと考えられる。また、この整版本とほぼ同内容の『三代記』（『明徳記』『応仁記』と併録されこの書名がある）と呼ばれる伝本もある。流布本系の成立は、鎌倉時代とする説から南北朝以降とする説まで幅があり、明らかではない。

前田家本系は、前田家（尊経閣文庫）に伝わった写本に代表される。その成立について、流布本系との関係を軸にさまざまな考察がなされているが、近年の研究では、流布本を抄出したのが前田家本とする説が示されている。また、内容からは足利氏への特別な態度が指摘され、足利政権下での成立が推測される。

この前田家本系に属するとされるのが『承久兵乱記』である。『承久兵乱記』は、前田家本から『吾妻鏡』を媒介して成立したとみられる。現在複数の伝本が残されており、いずれも元は同じであったと考えられるが、書写を繰り返すうちに誤写が生じている。このうち秋田県立図書館所蔵本が最も誤写が少ない善本とされる。

『承久軍物語』は、流布本（慶長古活字本）に近く、これに『吾妻鏡』（寛永以降の版本）を媒介して成立したと考えられる。『承久軍物語』はそのもととなった史料から判断しても、江戸期の成立と考えられる。

内　容

慈光寺本

『承久記』の中で最も古態とされ、乱後間もない「歴史を相対化する余裕のない時点で成立した」（西島三千代）とみられる慈光寺本は、他系統の諸本とはその内容や基調がまったく異なる作品である。その特異性は、後鳥羽院（朝廷）と北条義時（武家）を対等に描き出す姿勢からもたらされ、その思想的背景は、序部分に顕著に表れている。

また、その他内容的特徴として、宇治川の合戦について記述がないこと、他系統には見られない「佐渡へ配流される順徳院の長歌」および「藤原範継の助命の記事」が記されていること、義時追討の宣旨（承久３．５．15）が前田本と本書にのみ見られることが指摘されている。中でも、承久の乱において非常に重要な宇治川の合戦の記載がないことは、本書の成立事情にも絡んでさまざまな議論を呼び起こしている。

流布本

流布本といわれる系統の伝本は、その成立過程で『六代勝事記』あるいは『平家物語』『保元物語』を媒介したと思われる。中でも後鳥羽院への批判を中心に描かれる『六代勝事記』との関係は、本書の成立事情や思想性に絡んで重要視され、「六代勝事記は、（中略）承久の変の記述と批評とがその大きな特質を

なしている。この特質を一層拡大し強調して成ったのがとりも直さず、承久記であった」（後藤丹治）と指摘される。

前田家本系と非常に近い作品とされ構成もほぼ同一であるが、合戦場面など本書にしか見られない記事があり、承久の乱全体を最も詳細に描いている。冒頭は、後鳥羽院の帝紀で始まり、続いて源氏三代の記事、北条義時の紹介が続く。君臣論に縛られない慈光寺本と比較して、院と義時を君、臣と捉えており、国を治める器量に欠ける君（後鳥羽院）に乱の原因を求める徳治主義の姿勢が伺われる。

流布本の研究は、現在、慈光寺本に比べ盛んではない。しかし『承久記』の中で最も流通した系統であり、それはすなわちこの国の人々が求めた承久の乱の歴史化の姿を示すものとして意味のある史料である。

前田本

流布本からの抄出との説が示される本書は、当然その内容も流布本に極めて近く、宇治川の合戦をはじめ、慈光寺本には見られない記述が多数見受けられる。内容的特徴として、１点目に「義時追討の宣旨」が挙げられる。これは慈光寺本と前田家本にのみ見られるものだが、慈光寺本とは形式・文言が異なっている。２点目は後鳥羽院が全面降伏を意味する内容の院宣を遣わしたとし、その全文を掲げている点である。この院宣は前田家本のみに見られる。その他全体に「足利びいき」との指摘がある。

『承久軍物語』

『承久軍物語』に焦点をあてた研究は多くない。龍粛の論文「承久軍物語考」（1928年）が現在も多く引用されている。龍によれば、本書は、流布本（慶長古活字本）に近い。内容を比較するとこれと異なる部分は41箇所あり、これらはいずれも『吾妻鏡』（寛永以降の版本）の記事と一致する。逆に言えば、これらの部分を除くと、流布本『承久記』とほとんど同内容である。ただし、「芝田兼義の乗馬が立波と称する名馬である」との１箇所が、『承久軍物語』のみに見られる記述という。

なお、草稿本と見られる内閣文庫所蔵本は、「絵所」の指定や絵の注文が記入されていることから、絵巻仕立てにする予定の一本だったと推測される。

諸　本

慈光寺本系

その呼称の由来ともなったこの系統を代表する伝本は、彰考館文庫に所蔵されている。これを写したものが、東京大学史料編纂所、幸田文庫に所蔵される。

流布本系

流布本は、その呼称のとおり一般に最も広く流布したものであり、古活字本や整版本として刊行されている。これらは国立国会図書館、京都大学、天理図書館など、多数所蔵されている。さらに、古活字本や整版本を写したと思われる写本も多数存在する。内閣文庫所蔵本は流布本に近い内容とされるが、異文も多く他本に比べ全体に簡略である。

前田家本系

この系統を代表するテキストが尊経閣文庫に所蔵されている。この写本が東京大学史料編纂所にある。天理図書館でも所蔵される。

「承久軍物語」

内閣文庫(和学講談所旧蔵)に所蔵される。多数の書き込みがあり草稿本と考えられる。

「承久兵乱記」

静嘉堂文庫(八条家旧蔵本)、名古屋市立鶴舞中央図書館、東京大学付属図書館(南葵文庫)、東京大学史料編纂所、秋田県立図書館等に所蔵されている。

史料本文を読む

＜影印本＞

●＊『承久記 慈光寺』村上光徳編 桜楓社 1985 ※底本：彰考館所蔵本

●『前田家本承久記』日下力他編 汲古書院 2004［913.43/151］
※底本：尊経閣文庫本

◆「承久記」(『軍記物語研究叢書』第5巻 黒田彰編 クレス出版 2005［913.43/147/5］) ※底本：加賀聖藩文庫本(慶長古活字本に極めて近い伝本)

＜翻刻本＞

慈光寺本

●＊『承久記』矢野太郎編 国史研究会 1917（国史叢書39）

●『新訂 承久記』松林靖明校注 現代思潮社 1982（古典文庫68）［913.43/7］

流布本

(元和４年古活字本)

●＊『承久記』矢野太郎編 国史研究会 1917（国史叢書39）

◆＊「承久記」正宗敦夫校訂(『日本古典全集 第２回』日本古典全集刊行会 1929)

(慶長古活字本)

◆「承久記」(『日本歴史文庫』黒川真道編 集文館 1912)［K24/79/1-2］
※寛永版

◆＊「承久記」池辺義象校注(『校註国文叢書』第15冊 博文館 1915)
※近代になって初めて活字にされた流布本

◆『承久記』佐竹昭広他編 岩波書店1992（新日本古典文学大系43）［918/20/43］

前田本

●＊『承久記』矢野太郎編 国史研究会 1917（国史叢書39）

●『前田家本承久記』日下力他編 汲古書院 2004［913.43/151］（人物索引あり）

「承久軍物語」

●＊『承久記』矢野太郎編 国史研究会 1917（国史叢書39）

◆「承久軍物語」(『群書類従』第20輯 合戦部 巻370［K08/17/1-20］)

「承久兵乱記」

◆＊「承久記」（『国民文庫16』国民文庫刊行会編 国民文庫刊行会 1911）
◆「承久兵乱記」（『続群書類従』第20輯上 合戦部 巻572［081/2/20-1］）
※底本：八条家本
◆「承久兵乱記」（『改定史籍集覧』第12冊 別記98 近藤出版部 1926［210.08/13/12］［K24/214(臨川書店 1984)］）

＜注釈本＞

●『新訂 承久記』松林靖明校注 現代思潮社1982（古典文庫68）［913.43/7］（人名索引あり） ※底本：国立国会図書館所蔵本(流布本)
◆『承久記』佐竹昭広ほか編 岩波書店 1992（新日本古典文学大系43）［918/20/43］ ※底本：慈光寺本 益田宗･久保田淳校注
●『承久兵乱記』村上光徳編 おうふう 2001［K24/363］（人物索引あり）
※底本：秋田県立図書館所蔵本 解題あり

史料についてさらに知る－参考文献－

◆龍粛「承久軍物語考」（『史学雑誌』山川出版社 1918［Z205/1］ 再録『軍記物語研究叢書』第9巻 黒田彰編 クレス出版 2005［913.43/147/9］）
◆後藤丹治「六代勝事記を論じて承久記の作成問題に及ぶ」（『文学』vol.7(7)岩波書店 1939［Z910.5/7］ 再録『中世国文学研究』磯部甲陽堂 1943［910.24/5］）
◆＊後藤丹治「承久記概説」（『歴史と国文学』vol.22(5) 太洋社 1940 再録『学大国文』(6)大阪教育大学国語教育講座・日本アジア言語文化講座1963）
◆五十嵐梅三郎「承久兵乱記の成立に就いて」（『史学雑誌』vol.51(6) 山川出版社 1940 ［Z205/1］再録(『軍記物語研究叢書』第9巻 黒田彰編 クレス出版 2005［913.43/147/9］）
◆後藤丹治「平家物語著述年代考(三・完)－従来の諸研究への再吟味－」（『史学雑誌』vol.52(12) 山川出版社 1941［Z205/1］）
◆富倉徳次郎「慈光寺本承久記の意味」（『国語国文』vol.13(8) 中央図書出版社 1948 再録(『軍記物語研究叢書』第9巻 黒田彰編 クレス出版 2005［913.43/147/9］）
◆＊村上光徳「慈光寺本承久記の成立年代考」（『駒沢国文』(1) 駒沢大学1959）
◆益田宗「承久記－回顧と展望－」（『国語と国文学』vol.37(4) 至文堂 1960［Z910.5/1］）
◆＊杉本圭三郎「承久記をめぐって」（『軍記と語り物』(3) 軍記物談話会1965）
◆村上光徳「流布本承久記と前田本承久記の関係－その性格をめぐって－」（『駒沢大学文学部研究紀要』(25) 駒沢大学 1967 ［Z051.3/51］）
◆＊原井曄「前田本承久記の作者の立場と成立年代」（『歴史教育』vol.15(12) 日本書院 1967）
◆＊杉山次子「慈光寺本承久記成立私考(１)－四部合戦状本として－」

（『軍記と語り物』(7) 軍記物談話会 1970）
◆＊杉山次子「承久記諸本と吾妻鏡」（『軍記と語り物』(11) 軍記物談話会 1974）
◆村上光徳「慈光寺考－慈光寺本承久記の出所をめぐって－」（『駒沢国文』(14) 駒沢大学 1977 ［Z910.5/101］）
◆＊兵藤裕己「承久記改竄本系の成立と保元物語」（『軍記と語り物』(14) 軍記物談話会 1978）
◆久保田淳「慈光寺本『承久記』とその周辺」（『文学』vol.47(2) 岩波書店 1979［Z910.5/7］ 再録『久保田淳著作選集３』 岩波書店 2004）
◆村上光徳「承久兵乱記論考(上･中)」（『駒沢国文』(17)(19) 駒沢大学 1980-1982［Z910.5/101］）
◆＊大津雄一「慈光寺本『承久記』の文学性」（『軍記と語り物』(17) 軍記物談話会 1981）
◆村上光徳「『承久記』－構想の拡散性」（『国文学 解釈と鑑賞』vol.53(13) 至文堂 1988 ［Z910.5/16］）
◆＊佐藤泉「『承久記』考察－後鳥羽院の周辺」（『軍記と語り物』(25) 軍記物談話会 1989）
◆＊大津雄一「「誰カ昔ノ王孫ナラヌ」－慈光寺本「承久記」考」（『早稲田大学高等学院研究年誌』(33) 早稲田大学高等学院 1989 再録『軍記と王権のイデオロギー』翰林書房 2005）
◆松尾葦江「承久記の成立－軍記物語史構築のために－」（『室町芸文論攷』徳江元正編 三弥井書店 1991 ［910.24/155］）
◆＊日下力「『平家物語』源仲兼譚の背景と慈光寺本『承久記』の作者推考」（『軍記と語り物』(32) 軍記･語り物研究会 1996）
●『承久記・後期軍記の世界』長谷川端編 汲古書院 1999（軍記文学研究叢書10）［913.43/123/10］
◆＊鈴木彰「『平家物語』と『承久記』の交渉関係－「四部之合戦書」の時代における作品改変の営み－」（『国文学研究』(136) 早稲田大学国文学会 2002）
◆日下力「前田家本『承久記』本文の位相」（『前田家本承久記』汲古書院 2004［913.43/151］）
◆西島三千代「『承久記』研究における発見のいくつか」（『前田家本承久記』日下力他編 汲古書院 2004［913.43/151］）
◆＊野口実「慈光寺本『承久記』の史料的価値に関する一考察」（『研究紀要』(18)京都女子大学宗教･文化研究所 2005）